

学 校 名	山形市立第八小学校 山形市小白川町二丁目 8 番 36 号 TEL631-2140 FAX631-9009	校 長	丸山 一裕
		研究主任	佐藤 一彦
研 究 主 題	<p style="text-align: center;">「主体的に生活を創る子どもの育成」 ～ かかわりを大切にした授業づくり ～（1年次）</p>		
研 究 主 題 設 定 の 理 由	<p>本校では、研究主題を「主体的に生活を創る子どもの育成」とし7年目になる。また本年度、サブテーマを「～かかわりを大切にした授業づくり～」に変更している。</p> <p>昨年度までの研究の成果として、以下のような子どもの姿が認められる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 課題の設定 <input type="radio"/> 協働的な学び <input type="radio"/> 子どもたちの話し合いの中での問い返し <input type="radio"/> 生活を自分たちで創る・解決する気持ち <input type="radio"/> 聞き手を意識した話し方 </div> <p>また、昨年度までの実践を通して、以下のことが今後の課題となっている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> かかわり方や交流の仕方 <input type="radio"/> 全体で話す力、聞く力 <input type="radio"/> 他者意識をもった取り組み方 <input type="radio"/> 判断力をもった行動 <input type="radio"/> 学んだことや経験を生活に生かす </div> <p>これらの成果と課題を踏まえ、学校研究の主題について次のように考えている。</p> <p>「主体的に生活を創る子ども」とは、よりよい生活にするために、人とかかわりながら努力したり、試行錯誤したりしている姿と捉えている。子どもたちの学びは、教科の授業や単元だけで完結するわけではなく、その先の生活にまでかかわってくるものである。主体的に学習できる子どもは、生活も主体的に創ることができるようになると思われる。その姿はまさに、学校教育目標である『主体的に学び、心身共にたくましい子どもの育成』に直結していく。</p> <p>そのためには、適切なかかわり方を知ることと、かかわりたくなるような課題の設定が必要である。教師自身がかかわり方や支援の仕方・方法を振り返り、向上させていくことで、子どもたちの力は着実に向上するものと思われる。そのような理由から、サブテーマを「かかわりを大切にした授業づくり」に設定した。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>〈こんなかかわりができるように〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="radio"/> 問題や課題を把握し、ねばり強く最後まで解決できる。 <input type="radio"/> 一人で解決できない時には、友達と協力しながら解決しようとする。 <input type="radio"/> 友達の考えを聞き、自分の見方・考え方を広げたり、深めたりすることができる。 </div>		

	<p>さらに、学校教育目標や今の子どもたちの課題から、子どもたちに付けていきたい資質・能力を以下のように考えている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><主体性></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自ら考え、よりよい生活にするために、率先して行動を起こしたり、相手意識をもって仲間に働きかけたりする力 <p><たくましさ></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 仲間を大切にし、目標達成に向けて努力する力 ○ 粘り強く、最後まであきらめずに取り組む力 </div>
<p>研究の目標</p>	<p>(1) 授業を中心核としながらも、学校生活全般において、目指す子どもの姿について話し合い、共有し、主体的に生活を創る子どもの育成に向け、教師のみとる力を高め、適切な支援の在り方を追究する。</p> <p>(2) 授業実践を通して、学習活動におけるかかわり方を吟味し、学習指導力を高める。</p>
<p>研究の内容</p>	<p>(1) 学習の流れ かかわりたくなる課題（つくる・把握する・書く） →自力解決・情報交換（グループでのかかわり） →集団解決・情報交換（全体でのかかわり） →振り返り（かかわってどう変容したか） という授業の流れを基本とし、子どもの実態・教科・解決すべき課題・子どもの意欲や意思を加味しながら、子どもにとって適切な授業の流れをみとり、支援していく。</p> <p>(2) 研究の視点 育てていきたい子どもの力である「かかわり」を授業づくりの主な視点とする。各教師が視点に沿って授業づくりを行い、その実践を通じた成果と課題について、自分の見方を出し合い、検討していく。 「かかわり」… かかわりが、主体的・対話的で深い学びにつながっているか。共働的な学びができていたか。</p>
<p>研究の方法</p>	<p><研究授業について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全教科を対象とする。 ・ 授業を中心に、全学級で提案授業を公開する。 ・ 主体的な学び、対話的な学び、深い学びになるように、教師のカリキュラム・マネジメントを意識しながら、「付けたい力」「目指す子どもの姿」を明確にした授業を提案する。 ・ 研究授業は、学年や学年部で調整しながら、教科等を決定する。 <p><事前研究会について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学年部で必ず事前研究会を行い、学年部で「付けたい力」「目指す子どもの姿」を明確にした授業を提案する。 ・ 大研の事前研究会は、2週間前までに学年部と研究主任で行う。 ・ 指導案提出は1週間前までとし、教頭が点検し、教頭または研究主任が外部講師に送付する。 <p><事後研究会について></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 全体研究会や事後研究会の中で、子どもの姿（事実）を基に、一人一人のみとりを出し合い、子どもの学びの変容や成長などについて話を深める。 ・ 全体での話し合いと、ワークショップでの話し合いを有効に活用する。 ・ ワークショップ型の事後研（課題→改善策について検討） ・ 小研の事後研究会は学年部と研究主任で行い、研究推進委員を中心に進める。 <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 推進委員は大研の前に、「かかわり」について記載した事後研究会の式次第を作成し、2日前ま

	<p>でに指導案と共に全職員に配付する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究授業の終了後，2週間以内をめどに「事後研記録」を全職員に配付する。 ・ 研究全体会では，外部講師による指導を計画し，研究の充実を図る。
研究 の 計 画	<p>(1) 1学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 推進委員会は随時 ・ 全体会① 4月21日(金) ・ 授業研究会の日程調整，指導案形式の検討 ・ 授業研究会① 6月30日(金)(大研) ・ 全体会② 7月21日(金) <p>(2) 2学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小研の授業研究会は随時 ・ 授業研究会② 9月29日(金)(大研) ・ 授業研究会③ 10月26日(木)(大研) ・ 全体会③ 12月22日(金)，年間反省・実践の整理 ・ 研究集録形式提案 ・ 集録原稿作成 <p>(3) 3学期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 研究集録完成，関係機関に送付 ・ 全体会④ 2月19日(月)，成果と課題の集約・来年度の方向性